平成 28 年 9 月 7 日　第 2483 号

惚れ² 営農NEWS

抑制キュウリ栽培でのうどんこ病、べと病、褐斑病などの防除を徹底しましょう

抑制キュウリ栽培では、これから収穫期に入りますと茎葉が過繁茂となり、また、台風や長雨など悪天候時や気温の低下に伴う施設開口部の閉め切りなどで過湿となり、例年、各種の病害が発生しやすい環境になります。

抑制キュウリ栽培において中～後期に問題となる主な病害には、べと病、うどんこ病、褐斑病などがあります。これらの病害は、曇雨天が続くなど発生環境が好適になれば急速に発病進展し、一度、多発生した後では薬剤防除の効果が十分に得られません。また、気象１ヵ月予報（9 月 1 日発表）によりますと、今後「天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に曇りや雨の日が多い」と予想され、各種病害の発生を助長する条件と考えられます。

このため、これからは晴天の日をねらって予防散布に努めるとともに、病害の早期発見と発生初期の的確な防除を徹底することが重要になります。

＜防除のポイント＞

１　施設内の過湿を防ぐため、気温や風向きなどを常に注意して換気を行い、適正な温湿度管理に努めてください。

２　株間の通風を良好にするための整枝や剪定、樹勢を最適に維持するための適正な灌水や追肥など、常に適切な肥培管理作業に努めてください。

３　うどんこ病は、下葉や葉の込み合っている場所の裏葉などを丁寧に観察して、早期発見に努めてください。

４　病害発生を確認したら、早期に防除を行ってください。薬剤散布は十分量の薬液で、葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが特に重要です。

５　既に多発生した場合には、発病葉や茎などをできるだけ除去した後に薬剤散布を行い、病患部に薬液が十分散布されるようにしましょう。

６　薬剤耐性菌の出現を抑制するため、同一系統薬剤の連続散布は避けて、ローテーション散布してください。

表１　キュウリ茎葉や果実に発生する主要病害の主な防除薬剤（平成 28 年 9 月 7 日現在）

薬　剤　名	べと病	うどんこ病	褐斑病	その他	希釈倍率	使用時期／使用回数
ジマンダイセン水和剤	○				600～800 倍	収穫前日まで／3 回以内
			○	つる枯病、疫病 炭疽病、黒星病	600 倍	
ダコニール 1000	○	○	○	灰色かび病、炭疽病 黒星病	1,000 倍	収穫前日まで／8 回以内
ベルクートフロアブル		○	○	灰色かび病、炭疽病、 菌核病、黒星病	2,000 倍	収穫前日まで／5 回以内
セイビアーフロアブル 20			○		1,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
				灰色かび病、菌核病	1,000～1,500 倍	
オーソサイド水和剤 80	○				600 倍	収穫前日まで／5 回以内
			○	炭疽病	600～800 倍	
フルピカフロアブル		○	○	灰色かび病	2,000～3,000 倍	収穫前日まで／4 回以内
プロポーズ顆粒水和剤		○	○	黒星病	1,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
	○				1,000～1,500 倍	
ランマンフロアブル	○				1,000～2,000 倍	収穫前日まで／4 回以内
カーゼート PZ 水和剤	○				1,000～1,500 倍	収穫前日まで／3 回以内
アリエッティ C 水和剤	○		○		400～800 倍	収穫前日まで／3 回以内
ガッテン乳剤		○			5,000 倍	収穫前日まで／2 回以内
パンチョ TF 顆粒水和剤		○			2,000 倍	収穫前日まで／2 回以内
モレスタン水和剤		○			2,000～4,000 倍	収穫前日まで／3 回以内
ゲッター水和剤			○	灰色かび病、菌核病、 炭疽病	1,500 倍	収穫前日まで／5 回以内
スミブレンド水和剤			○	灰色かび病	1,500～2,000 倍	収穫前日まで／5 回以内
				菌核病	1,500 倍	

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ＪＡ全農いばらきホームページでもご覧になれます。

全農　JA全農いばらき

生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040